

4月	Ⅰ. バスを運転する心構え	
	1. バス事業の公共性と重要性 (1) バス事業の社会的役割 (2) バス運転者の使命 2. バス事故の社会的影響 3. 安全運行の心構え	【指導概要・ねらい】 バス運転者は公共的な輸送事業を担う社会的使命を背負っているとともに、バスの引き起こす事故が社会に影響を及ぼすこと、安全運行の心構えについて整理しています。 バスの運転が乗客の安全だけでなく、社会や他の運転者に及ぼす影響の大きさ等について理解と、模範となる安全運行を行うことが運転者の使命であることを理解してもらう。
5月	Ⅱ. バスの運行の安全、乗客の安全を確保するために遵守すべきこと	
	1. バス運行に係る法令 (1) 旅客自動車運送事業に係る法令 (2) 自動車の運転に係る法令 (3) 車両管理に係る規定 (バスの点検、車両のチェックの必要性) 2. 義務を果たさない場合の影響の把握 (1) 運転者に対する刑事処分 (2) 運転者に対する行政処分 (3) 会社に対する処分 (4) 重大事故を引き起こした場合の罰則 及び加害者・被害者心理	【指導概要・ねらい】 運転者がバス運行及び乗客の安全を確保するために守るべき交通ルールや安全確認の方法などについて整理しています。 バス運転者が守るべきルール等について理解と、これから逸脱した運転方法による交通事故の実例を説明し、危険な運転を確認してもらう。
6月	Ⅲ. バスの構造上の特性	
	1. バスの特性に合わせた運転 (1) 車高の高さに配慮した運転 (2) 車長の長さに配慮した運転 (3) 車幅の広さに配慮した運転 (4) 死角の大きさに配慮した運転 (5) スピードの特性に配慮した運転 2. 多様化する車両に合わせた運転	【指導概要・ねらい】 バス車両の構造とその特性、また特性に応じた安全運行上の留意点などについて整理しています。 バス車両の構造は特性に応じた運転が必要であること、各車両の留意点についての理解と、車両特性がどのような事故につながるのかなどを認識してもらう。
7月	Ⅳ. 乗車中の乗客の安全を確保するために留意すべき事項	
	(1) 「急」の付く運転はしない (2) カーブでの追越しはしない (3) 安全な速度と十分な車間距離を保つ (4) 乗客の状況を確認する (5) シートベルト着用の徹底を図る (6) 走行中の運転への集中	【指導概要・ねらい】 乗車中の乗客の安全を確保するために留意すべき事項について整理しています。 「急」の付く運転を行ったことにより乗客が倒れるなどの事故事例を挙げ、また高速バスでは、シートベルトの着用の義務と安全について理解してもらう。
8月	Ⅴ. 乗客が乗降するときの安全を確保するために留意すべき事項	
	1. 乗降時の乗客の安全確保 (1) 滑らかな発進・停止 (2) 乗車・降車のときの注意 (3) 貸切バスの乗降時の注意 2. 高齢者・障がい者の乗降時の安全の確保 (1) 高齢者の安全の確保 (2) 車いす使用者の安全の確保 (3) 視覚障がい者の安全の確保 (4) ベビーカー利用者の安全の確保	【指導概要・ねらい】 乗客の乗降時における、停車・ドアの開閉・発車などを安全に行うための配慮事項について整理しています。 乗降時の不適切な操作等による交通事故の実例により、運転者が危険性を認識し、周辺の状況の把握と安全に乗客を乗降させるための留意事項について理解してもらう。
9月	Ⅵ. 運行路線・経路における道路及び交通の状況	
	1. 運行路線・経路における道路・交通情報の把握 (1) 事前の情報把握 (2) 適切な運行経路の選択 2. 情報に基づく安全運行のための留意点	【指導概要・ねらい】 運行路線又は運行経路における道路や交通の状況の事前把握の必要性、事前情報を活かした安全な運行のための留意点などについて整理しています。事故やヒヤリハットの事例をもとに、事前情報収集の重要性の高さを認識し、情報を活かした危険回避を行うための留意点を認識してもらう。
	車両備付け保安用品の確認	
	1. 保安用品の確認を行う 2. 消火器、非常口の操作	発煙筒、三角表示、消火器、赤旗の備付確認 消火器の操作方法、非常口の解放確認
10月	Ⅶ. 危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法	
	1. 危険予測運転の必要性 2. 危険予測のポイント (1) 道路を利用する歩行者や自転車などの行動特性に応じた配慮 (2) 悪天候・夜間の危険への配慮等 3. 危険予知訓練	【指導概要・ねらい】 バス運行をとりまく様々な危険性を予測することの必要性などについて整理しています。 危険予知訓練の手法を用いて、危険の予測及び回避の方法を理解し、必要な技能を習得してもらう。

11月	Ⅷ. 運転者の運転適性に応じた安全運転	
	1. 適性診断の必要性 2. 適性診断結果の活用方法 (1)適性診断結果の活用方法の例 (2)「性格」の診断結果の活用 (3)「安全運転態度」の診断結果の活用 (4)「認知・処理機能」の診断結果の活用	【指導概要・ねらい】 個々の運転者が自らの運転特性について把握する方法、これを把握した上での安全運転への配慮の方法などについて整理しています。 実際の適性診断結果を用いて、個々の運転者に自己の運転行動の特性を自覚してもらう。
冬季	冬道対応訓練(チェーン脱着訓練)	
	1. チェーン脱着訓練 (1)車載チェーンの確認 (2)実車による脱着訓練	【指導概要・ねらい】 各車とも車両に搭載しているチェーンのキズなどの状態を確認しメンテナンスを行う。また冬場の雪道走行を想定し、実際にチェーンの脱着を行うことにより、やり方やコツを得ることによって実践に活かしてもらう。
12月	Ⅸ. 交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因とこれらへの対処方法	
	1. 交通事故の生理的・心理的要因 2. 過労運転防止のための留意点 (1)労働時間についての規定 (2)運行中の留意点 (3)日常生活での留意点 3. 飲酒や薬物の影響による危険運転防止のための留意点 (1)飲酒運転に対する罰則 (2)飲酒運転防止のための留意点 (3)覚せい剤等の使用禁止の徹底 4. ヒューマンエラーを防ぐために (1)道路交通法の禁止事項(携帯電話等の使用規制) (2)あせり、イライラ、疲れ時の運転 (3)運転席周辺的环境整備	【指導概要・ねらい】 長時間の連続運転・飲酒などの生理的要因、運転への過信などの心理的要因が、運転にどのような影響を与えるかについて整理しています。 生理的・心理的要因による実際の事故事例を用いて、これらが交通事故につながる重大な要因であることを認識し、理解してもらう。
1月	Ⅹ. 健康管理の重要性	
	1. 健康起因の事故と健康管理の必要性 (1)疾病が原因の交通事故 (2)健康診断の受診の必要性 (3)ストレスチェック等の受診の必要性 2. 健康管理のポイント (1)身体面の健康管理 (2)精神面の健康管理	【指導概要・ねらい】 疾病が交通事故の要因となること、健康診断受診の必要性、健康管理の方法などについて整理しています。 疾病が要因である交通事故事例から健康管理の重要性を理解、認識してもらう。
2月	Ⅺ. 安全性の向上を図るための装置を備えるバスの適切な運転方法	
	1. 運転支援装置に係る事故の事例 2. 運転支援装置の性能及び留意点 (1)ブレーキ制御を行う装置 (2)ハンドル操作の警告や支援を行う装置 (3)車体姿勢維持を支援する装置	【指導概要・ねらい】 「衝突被害軽減ブレーキ」「車線逸脱警報装置」等の自動車に備えられている安全性の向上を図るための装置(以下、「運転支援装置」)の特性と使い方を理解した運転の重要性について整理しています。 装置を過信し、事故に至るケースがあることを理解しまた、運転支援装置の限界とメーカーによる作動の違いを明確にさせ、運転支援装置に頼り過ぎた運転にならないように認識してもらう。
3月	Ⅻ. 貸切バスの添乗指導	
	1. 添乗指導の必要性 (1)添乗指導の不適切な実施が要因の交通事故 (2)添乗指導の実施の必要性 2. 添乗指導のポイント (1)事業者における取組事例 (2)社外の講座や研修の活用	【指導概要・ねらい】 添乗指導の必要性、事業者における取組事例などについて整理しています。添乗指導においては、20時間以上の実施が定められていますが、最低限実施することが必要な時間を示したものであり、各運転者の技量に応じた指導を行うことが重要です。
通年	ドライブレコーダーの記録を利用した運転者の運転特性に応じた安全運転	
	1. 映像の確認・収集 (1)「事故」「ヒヤリハット」「運転に関する苦情」発生時の積極的な情報収集について (2)映像の分析 2. 指導とフォローアップ (1)個別指導と画像を用いたフォローアップ (2)集団教育・初任教育への活用	【指導概要・ねらい】 映像を活用して問題点を理解し、適切な再発防止対策を講じることにより運転者を事故から守る。また事故発生の際には記録された映像を解析することで、適切な運転を行っていた運転者を事故の責任問題から守る。
	バスジャック対応訓練	
	1. 車両における乗務員の対応 (1)対応の基本 (2)社外への連絡 (3)留意事項 (4)予告情報への対応 2. 事業者の対応 (1)発生時の連絡・報告 (2)対策本部の設置等 (3)予告情報への対応 (4)その他(平時)の対応	【指導概要・ねらい】 「バスジャック統一対応マニュアル」をもとに、緊急時の対応手順について確認を行う。乗務員・事業者がそれぞれの立場で適切な行動がとれるように手順を学ぶ。